

八王子市市民活動支援センター 令和2年度 事業報告

八王子市市民活動支援センター
センター長 浜野悦博

令和2年度はコロナで始まり、コロナで終わった一年となりました。

東京都や市の対応に合わせ、センターでも時間、利用者数の制限、消毒等の感染防止対策を充分に行い運営にあたってきました。

また、講座、イベント等については、前半期には市に足並みを揃え、自粛ムードの中、開催ができない状態でしたが、後半期に入り、オンライン活動等の工夫を行い、これまでとは異なる形態で開催いたしました。

このように変則的な対応ではありましたが、ビジョン「私たち一人ひとりがつながって、夢をカタチにできる八王子」の実現を目指すことに変わりはありません。ミッション「社会課題と市民・団体の力をつなぎます。市民が社会貢献活動に参加し、NPO・市民活動団体がチカラを発揮できるよう、さまざまな事業を通じ支援します。」の言葉に沿って業務にあたってきました。

1. 施設利用状況

交流室	活性化室	フリースペース	コピー機	印刷機	面談相談	来所他	電話相談	電話他	メール相談
544	518	0	75	32	72	328	42	2134	0
835	692	3356	366	178	129	420	55	1923	6

上段：令和2年度、下段：令和元年度

当年度初めより新型コロナウイルス感染症予防を重視し、会議室利用やセンターに来所していただくことが一般的に減少することになりました。またフリースペースは通年閉鎖状態の対応となりました。これらは市役所と連絡を取り合い、下記のように感染予防対策の利用制限を行ないました。

また来場者の体温測定、消毒、および利用後の消毒を行い、ソーシャルディスタンスのため会議室利用時は各室ともに定員を9名ずつとしました。

経過 ・令和2年4月10日まで、会議室、フリースペース利用不可。コピー、印刷利用可。

・4月11日より臨時閉館。電話メールのみ対応。

・6月9日より開館

・令和3年1月8日から2月7日緊急事態宣言発令（会議室は10時～19時まで利用）

・2月8日より3月7日まで緊急事態宣言延長（同上）

・3月8日より21日まで緊急事態宣言延長（会議室は10時～20時まで利用）

・3月23日より通常通り

【課題と評価】

このような中でも来所する市民に対しては感染防止を重視しつつ丁寧な対応を心掛け、前年と比べて同様の満足度を得ました。

2. 調査研究活動

市民活動に関する多様な相談に対応すると共に、効果的なサービスを提供するためには社会環境の課題やNPO、市民活動の実態把握が大変重要であり、スタッフが外部イベントや講習会等へ参加しスタッフのレベルアップに努めました。

また、今年度も利用満足度調査を実施しました。センター来場者180人から回答を得ました。

【課題と評価】

利用満足度調査の結果は、「満足」、「やや満足」で 98.2%となり、引き続き高評価をいただきました。自由記述では「細やかに説明していただき感謝します」、「ていねいな提案がありがたい」等のメッセージをいただきました。

ただ、新型コロナ感染症対策を重視した職員の対応について、好意的な評価をいただく方もいれば、人数制限や時間制限に不満を持つ利用者もいました。こうした方にはていねいに説明することで納得いただくように努力しました。

また、研修では、今年は、オンラインでの研修にも参加し、時間とコストの削減にも配慮しました。

3. 総務部の活動

(1) 相談対応及び専門相談

支援センター業務の大きな柱である相談業務は、相談者に寄り添い、受け止めるという基本的な考え方で対応しています。相談は1回で終わりにせず、いわばリピーターとして何度も来ていただき、さまざまな視点からの助言ができること提案することを心掛けて対応しました。

専門相談は NPO 経営支援アドバイザー派遣制度の活用やNPO法人との提携により、経理、労務、税務等の相談に対応しています。

【課題と評価】

本年度も、NPO 法人設立、NPO 法人運営、団体の会計等のバックオフィス関連のことや、助成金獲得や効果的な広報、他との連携等の相談がありましたが、これらのための情報不足という課題がありました。これに対応するため、専門書籍を購入し、NPO 支援組織としての知識を得ることとしました。

相談をきっかけにセンターの複数の機能を利用していただく利用団体もありました。

4. 広報部の活動

広報部は、社会を取り巻くさまざまな課題をタイムリーに捉え、そうした活動の中から市民や多様なセクターが、気付きや連携の糸口を得、まちづくりや地域参加のための市民力、地域力向上に貢献できることも大きなねらいの一つとして広報紙「SUPPORT802」を中心に情報発信を行っています。

(1) 広報紙「SUPPORT802」について

○ 活動内容 本年度制作した広報紙の概要は以下の通りです。

発行号数	発行日	特集記事（取材団体）	発行部数
第 96 号	令和 2 年 5 月 1 日	「大自然の中で学ぶ『支え合うチカラ』～八王子森林パトロール隊の取り組み～」（八王子森林パトロール隊）	5000 部
第 97 号	令和 2 年 7 月 1 日	「コロナ禍における八王子の市民活動」（支援センター登録団体）	5000 部
第 98 号	令和 2 年 9 月 1 日	「語り継ぐ、八王子の昔ばなし～高尾山とんとんむかし語り部の会～」（高尾山とんとんむかし語り部の会）	5000 部
第 99 号	令和 2 年 11 月 1 日	「野鳥の世界にようこそ！～八王子・日野カワセミ会の取り組み～」（八王子・日野カワセミ会）	5000 部
第 100 号	令和 3 年 1 月 1 日	「SUPPORT802 100 号！～今までの歩みと、これから～」（八王子市市民活動支援センター広報部）	5000 部
第 101 号	令和 3 年 3 月 1 日	「Do It Yourself～自由に作る！DIY には楽しみがいっぱい～」（多摩 DIY 倶楽部）	5000 部

※主な配布先:センター登録団体、協議会会員、市内公共施設、市内各駅の広報スタンド、中間支援団体、市内NPO法人、配布希望町会・自治会、その他(八王子町会自治会連合会、八王子老人クラブ連合会、八王子センター元気、八王子レクリエーション協会、紙面掲載団体他)北原国際病院、西武信用金庫八王子支店・檜原支店・北野支店、多摩信用金庫京王八王子支店

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が、市民活動のさまざまな場面に及びました。第 97 号で

は、センター登録団体がコロナ禍においてどのような状況に置かれているか、またコロナ禍でどのような取り組みを行っているかについて、アンケートを通じて寄せられた「声」を社会に発信しました。

第 98 号では、高尾山とんとんむかし語り部の会の活動の様子を、紙面に掲載した QR コードから閲覧できる朗読映像により伝える、メディアミックスの試みに挑戦しました。

今年度は、広報紙通算 100 号に到達し、100 号では広報部で座談会を行い、広報紙 100 号の特集記事をふりかえりながら市民活動の動向について語りました。

原則、隔月開催の広報部会で広報紙の制作方針を決定し、取材を敢行。取材後に実施する編集会議において紙面構成の考え方を擦り合わせ、校正ののち入稿～発送という流れで制作しています。

【課題と評価】

今年度は原則として部長、支援センタースタッフ、サポートスタッフの 3 名体制で進めましたが、サポートスタッフはライターとしての専門性を有しており、取材・原稿執筆について一任する体制を採りました。他方、紙面のデザインや写真撮影、団体との連絡調整、3 面・4 面記事の作成といった作業は他 2 名で対応するなど役割分担が明確になったことにより、スピーディーな作業が可能となり、工程を前倒しし余裕をもったスケジュールで紙面制作が行えた号が複数回ありました。次年度も余裕をもったスケジューリングができるよう、調整していきたいと考えています。

(2) メールマガジン「SUPPORT802 だより」について

○活動内容

本年度の発行概要は次の通りです。

号数	配信日	主な内容
No. 135	令和 2 年 4 月 19 日	巻頭言「オンラインでのコミュニケーション」他
No. 136	令和 2 年 5 月 16 日	巻頭言「大学生と行った、新型コロナを考えるオンラインワークショップ」ほか
特別号	令和 2 年 5 月 21 日	「コロナ禍における八王子の市民活動」の現状、取り組みについて～市民活動団体の「声」募集～
No. 137	令和 2 年 6 月 6 日	巻頭言「コロナ禍での気づき～新しい日常と向き合う～」、「メルマガ特別号より～現在までに寄せられた団体からの『声』～」ほか
No. 138	令和 2 年 7 月 7 日	巻頭言「大切なことは『自発性』」、「メルマガ特別号より～現在までに寄せられた団体からの『声』～」ほか
No. 139	令和 2 年 8 月 1 日	巻頭言「危機は『分かれ目』」ほか
No. 140	令和 2 年 9 月 1 日	巻頭言「『八王子 NPO パワーアップ講座 2020』がはじまります」、「八王子 NPO パワーアップ講座 2020」のご案内ほか
No. 141	令和 2 年 10 月 4 日	巻頭言「コロナ禍がきっかけの新しい体験」ほか
No. 142	令和 2 年 11 月 12 日	巻頭言「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オンライン」、「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オンライン開催のご案内ほか
No. 143	令和 2 年 12 月 4 日	巻頭言「1 年前と、1 年後～過去、現在、未来の連続性～」ほか
No. 144	令和 3 年 1 月 11 日	巻頭言「1 年前のメルマガ巻頭言をふりかえる」ほか
No. 145	令和 3 年 2 月 13 日	巻頭言「季節は移りゆく」、寄稿「SDGs から市民活動を考える」ほか
No. 146	令和 3 年 3 月 12 日	巻頭言「東日本大震災から 10 年」ほか

上の表の「主な内容」に加え、センター主催事業の開催案内や、助成金情報などをメルマガ本文に盛り込

んでいます。

【課題と評価】

今年度は、コロナ禍により市民活動団体の活動に大きな影響が出ました。そうした状況を踏まえ、メルマガジン特別号の形を採り、支援センター登録団体にアンケート調査を行い、コロナ禍で活動にどのような影響が出たのか、またその状況の中で工夫をしている点はあるかといった点について聴き取りを行いました。その結果が、「SUPPORT802」97号の特集記事として広く社会に発信されることとなり、メルマガと広報紙の連動企画として1つの事例をつくることができました。また、この調査により寄せられた団体からの「声」のいくつかをメルマガで紹介し、他の市民活動団体にとっての参考とするなど、中間支援組織の情報媒体としての役割を果たす上で有効に機能させることができたと考えています。

5. 啓発部の活動

今年度も団体活動のステップアップを狙ったパワーアップ講座や支援講座、市民の方に団体が取り組む市民活動を知っていただくためのアクティブ市民塾など、多角的に市民活動を周知するためのプログラムを実施しました。

(1) アクティブ市民塾

月 日	分野	団体名	タイトル	定員	申込人数	参加人数
令和2年4月26日 (日)	文化	パフォーマンス集団ヨロコンデ	体験型ミステリー「ミス・シャーロック・ホームズの憂鬱」	25名	中止	中止
令和2年9月18日 (金)	福祉	キャラバン隊にじのかけはし	ちょっと気になる子どもの気持ちと関わり方	20名	20名	16名
令和2年11月29日 (日)	環境	八王子・日野カワセミ会	はじめての野鳥観察～身近な自然を感じてみませんか?～	20名	68名	17名
令和2年12月12日 (土)	文化	わら細工の会 円座	手づくりしめ縄で迎えるお正月	15名	27名	14名
令和3年2月21日 (日)	環境	八王子わんにゃんクラブ	ねこの保護活動を知る～人と動物が共存するために～	20名	33名	30名(22名+ZOOM 8名)
令和3年3月4日 (木)	福祉	フードバンク八王子えがお	フードバンクと貧困問題について考える	15名	延期	延期
合計6回　うち開催4回、コロナのため中止1回、コロナのため延期1回						77 (105)

【課題と評価】

開催した4回のうちすべては定員を上回る申込をいただき、抽選を実施しました。ただし、申し込みをしたもののコロナの感染状況を心配してキャンセルした方もいました。コロナ感染防止策に配慮し実施しましたが、キャンセルに対応方法が今後の課題です。

今後も多くの申込をしていただけるよう団体の魅力的な側面に焦点を当てた講座を企画していきます。

(2) 実践講座

月日	タイトル	講師	定員	参加人数

令和3年3月18日 (金)	八王子にあったらいいなをカタチにするヒント 地域に根差したビジネスで八王子を元気に	NPO法人コミュニティビジネスサポートセンター 岡田浩一	25	18
------------------	---	---------------------------------	----	----

【課題と評価】

開催日が緊急事態宣言発令中だったため、ZOOM開催としましたが、参加者は想定した人数を下回ってしまいました。やはりコロナの影響が多かったです。

(3) 支援講座

開催日	テーマ	講師	定員	参加人数
令和3年2月11日 (木)	ZOOMを活用した一歩先行く会議の進め方	地域ICT利活用研究会	10団体	11団体18名

【課題と評価】

今年度はコロナ対応を模索した年であり、対応手段としてオンラインツールのZOOMを活用する要望が多くありました。この課題を解決するためにZOOMのホストを行う講座を開催したところ、多くの方の参加申込みを受けました。ただし、参加者は初心者の方の参加希望もあり、次年度は初心者向けの講座の開催を検討したく考えています。

(4) 支援講座2 (NPOパワーアップ講座)

	開催日	タイトル	講師	会場	参加人数
1	10月9日(金) 14:00~16:00	会議を効果的にマネジメントする方法	呉 哲煥さん (NPO法人CRファクトリー代表理事)	クリエイトホール第2学習室	13名 8団体
2	10月30日(金) 14:00~16:00	メンバーが主体的に活動できる仕組みの作り方	高橋葉子さん (NPO法人CRファクトリー)	クリエイトホール第2学習室	12名 8団体
3	11月13日(金) 14:00~16:00	NPOを支えるお金	浅井美絵さん ファンドレイザー	クリエイトホール第2学習室	12名 8団体
4	12月4日(金) 14:00~16:00	NPO会計の基本	高野安季子さん 税理士	クリエイトホール第2学習室	10名 7団体
5	1月15日(金) 14:00~16:00	人が集まる講座とチラシの作り方	坂田静香さん (NPO法人男女共同参画おおた理事長)	ZOOM会議	17名 8団体
6	3月12日(金) 14:00~16:00	情報発信の重要性と効果的な発信方法	手塚 明美さん (認定NPO法人藤沢市市民活動推進機構理事長・事務局長)	ZOOM会議	13名 8団体

【課題と評価】

今年度も団体に原則として連続的に受講をしていただきました。6つの講座は、「組織のあり方」、「お金」、「情報発信」に分かれていて、外部からそれぞれの専門家を講師に招きました。それぞれの講座では、団体同士のディスカッションの時間を設定し、講義のテーマに関する横の連携を促進し、参加団体にとっての活動の広がりも意図しました。

6. 情報部の活動

(1) 支援センターホームページの改善、維持・改造

○活動内容

- ①Web サーバーおよびメールサーバーの安定稼働
大きなトラブルもなくセキュリティ監査も問題なく、安定稼働しています。
- ②サーバーのセキュリティ脆弱性の対応状況を随時把握
 - ・Peatix の情報漏洩事件の影響で、一時稼働を停止し、管理ページにアクセスできる全てのアカウントの ID とパスワードを変更しました。
 - ・市からのこれまでの J-LIS 情報が、支援センターWeb サイトでは該当しないことを確認しました。
- ③コンテンツの充実
 - ・NPO ハンドブックのページを新規に作成し公開しました。
 - ・プロボノの紹介ページ、実績ページの更新を行ないました。更新作業を五大システムを通さずに更新できる改造を検討しましたが、予算的に折り合わず見送りました。
 - ・令和元年度利用者満足度調査結果を公開しました。
 - ・申込フォームと問い合わせフォームの返信先を、フォームに記入されたメールアドレスに統一する改造を行ないました。

【課題と評価】

- ・支援センターの Web サイトはセキュリティレベルを確保しながら、安定稼働しています。
- ・コンテンツの更新も各部の要請に基づき随時実施しました。
- ・はちコミねっとが新元気 365 システムに移行すれば、はちコミねっとはスマホ対応となります。支援センターの Web サイトも同期してスマホ対応した方が、はちコミねっとから支援センターの Web サイト、またはその逆のリンクを貼った時にも、連携がスムーズになり、市民から操作性に関するクレームを未然に防ぐことができると思います。五大システムはスマホ対応は可能(別途改造費必要)と言っており、新元気 365 システムへの移行に併せて対応すべきであると思います。

(2) 【はちコミねっと】の保守および活性化

○活動内容

- 1) 団体への普及啓蒙および問い合わせ対応
- ①はちコミねっと団体向け講習会
 - ・登録団体向けに操作方法を理解していただく講習会を 9 回実施しました。
 - ・8 月からは新型コロナ対応としてオンラインでも受講できるようにしました。
 - ②はちコミねっと団体向け個別講習会
 - ・新型コロナの影響で対面での個別講習会は中止し、電話での相談対応としました。
 - ③市民企画事業補助金採択団体向け講習会
 - ・市民企画事業補助金が中止になったので実施しませんでした。
 - ④メルマガ会員の増加
 - ・はちコミねっとのチラシを広報と一緒に配布しました。
 - 3 月時点で 696(前年比+52)人が登録しています。
 - ⑤アクセス状況等の把握
 - ・3 月時点で 448(+9)団体が登録しています。団体インベントリを行った結果、8 団体から登録抹消の申請がありました。
 - ・定期的にアクセス状況を測定しました。広報紙に大きく出た時はアクセス数の特異点を観察するなど、広報

紙とアクセスの関係性が見て取れました。

⑥システムメンテナンスおよびベンダー対応

・新型コロナウイルス情報を「関連情報」「支援をしたい・支援を受けたい情報」に分けてトップページに常設する形で公開しました。

・元気 365 システム機能の改善要求を行ないました。改造に応じてもらえない場合は、制約事項として操作説明書を改版しました。

・団体の基本情報にある外部サイトのリンク切れや、登録メールアドレス、団体ホームページの URL 等をチェックし、36 団体に変更の依頼を行ないました。

・Gmail や Yahoo のメールアドレスの市民にはちコミねっとからのメールが届かない現象が 6 月に発生し、はちコミねっとのメールサーバーの設定変更で対応しました。

⑦次期元気 365 システム対応

・新機能および移行スケジュールに関して 10/27 打ち合わせを実施し、パーソルワークスデザインから次年度以降の移行スケジュールが示されることになりました。

【課題と評価】

・4 月 7 日の最初の緊急事態宣言以降、市民活動が大きく冷え込み(2020 年 5 月の月報参照)、投稿数が大幅に低下しました。団体向けはちコミねっと操作講習会の開催も困難になったことから 8 月よりオンライン講習に切替えたことは、在宅でも参加できると好評をいただきました。しかし、細かい指示などは対面でのほうが行いやすく、オンラインにも慣れていない方が多いため、ZOOM 講習などのオンライン対策も必要です。

(3)職場内 ICT 環境の整備。

○活動内容

1)情報セキュリティ全般の強化

①毎月の J-LIS 対応

市から送付されるセキュリティ情報のうち、支援センター Web サーバー、Mail サーバーおよびスタッフの PC に該当しないかチェックし、必要に応じバージョンアップと注意喚起を行ないました。特に仕事上のやり取りが多いと思われる、非常勤スタッフ、夜勤スタッフ、協議会メンバーへも注意喚起を行ないました。

②市からの指示事項対応 パソコン管理台帳の整備など

パソコン台帳、備品リストなどを整備し市へ提出しました。その他、全 PC のスペック、整備状況、ライセンス情報などの管理を行ないました。

③ウイルス対策ソフトの更新

更新時期がきたウイルス対策ソフトのライセンス更新を実施しました。

④業務データの保全

ファイルサーバーの定期的診断を実施しました。RAID 構成に加えて定期バックアップを実施しています。また、スタッフの PC を他のスタッフや夜勤者が使えないように、ログインパスワード(マイクロソフトアカウント)を情報部だけが知りうる形にし、各自のログインは各自設定した PIN で行うよう制度変更を行ないました。

⑤個人情報・法人情報データの漏えい対策

DeviceLock の更新、サイボウズファイル管理アクセス権の見直しを実施しました。

サイボウズではレベル 2 以上の機密情報を扱わないようスタッフに注意喚起しました。

⑥管理指定者向け情報セキュリティガイドラインの遵守およびパソコンとサーバーのセキュリティ関連の設定 Emotet 対応やトロイの木馬型のフェイク広告などの対応を全スタッフに改めて周知しました。

⑦貸し出しパソコンの整備、さぼはちガーデン設置パソコンのセキュリティ管理

新型コロナウイルス対策で貸出 PC の貸出を禁止しました。セキュリティ関連のライセンスが切れたものには更新作業を行ないました。

⑧Wifi 設備の安定稼働

来館者向け Wifi としてクレームもなく稼働しています。FreeSpot 導入で同時アクセス数が拡大した効果と、⑨にある回線工事による安定化が寄与しています。

⑨LAN の管理

活性化室の LAN ケーブル損傷が発覚し、再工事後正常化しました。

協議会が契約していたリコーの BB パック SELECT が契約時からメリットがなかったことが判明し、解約してもらいました。また、昨年度 VLAN の工事を内製化しているため、リコーによるネットワーク保守(スポットを含め)が不要な状態となりました。

⑩ファイルサーバーのデータ保全と管理

NAS とそのバックアップは、正常に稼働しました。NAS は RAID1 による二重化を行い、週 1 回 HDD にバックアップを行っています。

2) パソコン性能改善によるスタッフの作業効率の向上

①Office2010 をインストールしている PC は予備機と貸出機であり、新型コロナウイルス対策で使用頻度がほぼなくなったため Office2019 へのアップグレードを見送りました。

②PC-26 が画面ブラックアウトなどの症状が頻発し、原因が Windows10 の 32 ビットバージョンに PC のハードスペックが非対応と思われ、PC-32 を新規購入(備品)し置き換えました。

③PC-25 のモニターが故障したため、外付けモニターをつけて、利用を継続しています。

④PV-07、PC-13、PC-18 の 3 台を整備しても実用に耐えないため廃棄処分としました。(7 月)

3) サイボウズ Office の有効利用を図る

①サイボウズ Office 管理者業務

新スタッフ向けの操作方法講習会、新理事向け操作法講習会を各 1 回実施しました。活用のための啓蒙活動、運用ノウハウの共有を行ないました。

②新スタッフおよび新理事のアカウント登録と各ドキュメントへのアクセス権の設定を行ないました。

4) オンライン業務への対応(新規)

新型コロナウイルス対応で、ZOOM による会議環境を整えました。特にセンター会議はハイブリッド型の会議形式(会議室とオンライン)になるため、ZOOM、マイクやミキサーなどを整備しました。

【課題と評価】

- ・セキュリティ関連では環境整備とスタッフ向け注意喚起を繰り返すことで、事故は発生していません。
- ・スタッフ向けには、パソコンの高速化と安定稼働、セキュリティの強化と啓蒙、サイボウズでの情報交換と情報共有が浸透し、業務効率の向上とセキュリティレベルの向上を達成しています。またパソコンの性能強化施策(メモリ増強、SSD 換装、Windows10 アップグレード)により新規購入を最低限に抑えたため、経費削減にもなっています。予備機、サロン PC、夜勤 PC を除き HDD 搭載機を排除したので、今後しばらくは性能問題や HDD クラッシュという事態は起きないと思われそうです。
- ・新型コロナウイルス対策でオンライン会議などの需要が高まるため、回線契約者である協議会に光回線(これまでは ADSL 回線)への変更工事を依頼した結果、会議室で PC を複数台使った ZOOM 講座が行えるようになりました。
- ・マイクロソフト Office が Office2013 が 2023 年に、Office2016 と Office2019 が 2025 年に Microsoft365 に完全移行するため、今後は Microsoft365 への移行を速やかに準備する必要があります。
- ・With コロナの時代では、支援センターがオンラインでできることを試行し、そのノウハウを市民活動団体と共有していくことが今後の課題です。

7. ファンド部の活動

1. 全体

■PR・広告

広く団体および市民の方々に、ゆめおりファンドをPRし活用していただくために支援センター広報誌「SUPPORT802」に、「もっと知りたい！ゆめおりファンド(物品支援と人事支援)」シリーズとして掲載しました。これに伴い、従来からの「ファンド部レポート」の発行を中止しました。

7月号「プロボノによる支援のながれ」

9月号「物品支援の取り組み」

11月号「団体の情報開示がなぜ必要？」

■団体・企業訪問

■プロボノ「オンライン会議個別体験相談会」

新型コロナ禍にあり、企業では ZOOM などを活用したオンライン会議が急速に普及している一方、市民活動団体はスキル、年齢などからオンライン会議の普及に手間取っています。

post コロナ時代に於いても、オンライン会議は団体活動に必要な不可欠なツールと言えます。

そこで、オンライン会議や勉強会などに関心ある団体から個々に実情と課題を聞き、オンライン会議のスタート台に立てるよう基本操作と実践的方法を、プロボノ支援する「オンライン会議個別体験相談会」を企画、6月に第一回を開催しました。

団体課題を解決するツールの一つとのことから、当事者として真剣に取り組んでいただきました。大変好評でしたので、その後8月、9月、11月と追加開催、計14団体に参加いただきました。

■プロボノワーカー貢献証(2020/2/1)

八王子市内で自主的に公益活動している市民活動団体の理念に共感し、自らの知識やスキルを無償提供し、団体の課題解決にともに取り組んだプロボノワーカーに対して感謝の意を表する「プロボノワーカー貢献証カード」を5名に贈呈しました。

■プロボノ説明会(3/7)

プロボノ説明会を3月7日に会場を借りて開催しました。基調講演は認定NPO法人サービスグラント嵯峨代表理事による「仕事の経験・スキルを活かした社会貢献 プロボノの可能性」でした。

続いて、NPO法人みやま郷「経理業務の効率化」、すずらん食堂「フェイスブックページ開設」のプロボノ体験報告でした。効率的な会計処理ができるようになったこと。フェイスブックページ開設で情報や活動の周知ができるようになっただけでなく、ご覧になった方から寄付をいただいた等の報告がありました。

新企画として今年度大学コンソーシアム八王子で最優秀賞を受賞した創価大学経済学部西浦ゼミ生によるTeam Lights「コロナ禍における高齢者支援」の発表でした。ICT指導者(プロボノワーカー)と市民(大学生や市民活動団体など)がチームを作り、高齢者の加盟団体に「世代間ネット交流」などを提案するもので実証実験などが報告されました。オンライン会議・個別体験相談会の講師の「コミュニティビジネスとプロボノ」についての発表がありました。最後に、ファンド部から新しい取り組み「GRANT」を中心とした解説と団体の応募、プロボノワーカー登録のお願いがありました。2団体から支援相談とプロボノワーカー登録希望者と対応しました。

コロナ禍でしたが、定員 27 名でのリアルな説明会でした。結果は満席でプロボノへの関心の高さが窺えました。

■「GRANT」導入

人生100年時代におけるあるべきプロボノを見据え、認定NPO法人サービスグラントがオンライン支援をベースとした社会参加プラットフォーム「GRANT」を立ち上げました。

団体課題の「随時発信」、「個人単位」による短期集中型のプロジェクト、「ワーカーの随時募集」が特徴です。支援センターは、プロボノ開始当初より、定期的な「中期プロボノ」と団体が必要とするときに利用できる「随時プロボノ」を並行して行っています。また、「複数人からなるチーム」による活動が一般的な中であって「個人単位」での支援も行っています。その意味から支援センターのプロボノと「GRANT」は高い親和性があります。

また、サービスグラントのブランド力から、地域を超えて高い社会貢献意識、様々なスキルの個人がプロボノワーカーとして応募してくる可能性が高いことから、プロボノワーカーのすそ野の拡大、それに伴う支援メニューの増強が実現できると「GRANT」にコーディネーター登録しました。

4. 団体情報開示支援

■ゆめおりファンド参加団体

昨年より2団体増の 58 団体が参加しています。

■「ゆめおりファン্ড認証盾」贈呈

コロナ禍でもあり、支援センターの指定管理者、NPO法人八王子市民活動協議会から団体情報の開示に努めている団体として、今年度、新たに「ゆめおり認証団体登録」したボーイスカウト八王子第12団、なみき福祉会に「ゆめおりファン্ড認証盾」を指定管理者NPO法人理事長より贈呈しました。

その他対象団体は、露の会、チャイルドライフ、八王子いちよの会、スペシャルオリンピックス日本・東京、八王子市民活動協議会、筋無力症患者会、八王子共生社会推進会議、難病ネットワーク、フードバンク八王子えがおの計11団体です。

■地域ファン্ড研究会活動

情報開示支援(登録条件の一元化検討)

2009年に、団体に物品、人財(プロボノ)等の運営資源の提供とCANPANのデータベースを利用した情報開示の場を提供することにより、運営基盤が確立できるよう「ゆめおりファン্ড事業」が発足しました。スタートから10数年が経ち、ITの発達・普及に伴い、団体単独でウェブサイト、フェイスブックなどの情報開示ツールを活用する時代となり、CANPANに登録し情報開示レベル★★★以上の取得を必要とする登録条件は、「はちコミねっと」の登録条件とも異なることから、市民活動団体にとってわかりにくいとの声も聞こえるようになりました。そこで、団体情報開示支援として支援センターと一元化した登録条件の見直しを開始しました。

人財支援(「GRANT」への参加)

更なる人財支援を図るために「GRANT」へのコーディネーター登録を検討し、2月の登録、支援を開始しました。

8. 地域・事業連携部の活動

(1) NPOハンドブックの作成

・八王子市で活躍する市民活動団体の目的や活動内容をまとめた冊子「NPOハンドブック」を3月に発刊しました。

当センターの広報紙「SUPPORT802」やホームページ、八王子市の「広報はちおうじ」で情報の提供を呼びかけるとともに、これまで八王子市民活動協議会で作成した「生き生きハンドブック」の団体の協力により284団体の情報を掲載することができました。

このハンドブックは市民の方々が市民活動団体でボランティア活動をしたと思ったときに、この冊子を紐解き、希望する団体を探すための第一歩となります。

- ・市民活動団体にとっても、その活動を多くの市民に知ってもらい、交流することによって、より理解を深め、会員として参加が期待できます。新しい会員の増加は、団体を活性化し、活動を強化することができます。また、ほかの団体の活動を知り、お互いに助け合ったりすることで大きなネットワークを築くこともできます。
- ・当市民活動支援センターでは、今後も市民の方々が活動団体に参加しやすい仕組みを作っていくとともに、NPOハンドブックはこれらの活動において市民と活動団体とをつないでいきます。同冊子は情報を提供してくれた団体や、会員、八王子市の図書館、市民センターなどに配本するとともに市民と市民団体を結ぶイベントで提供していきます。

【課題と評価】

活動団体からの情報提供にかかる広報を11月はじめから実施したため、極めて短い期間に情報を集めるとともに、印刷の版下として加工する作業が集中しました。しかも作業を実施する人数も極めて少ないため、多くの負担がかかりました。幸い「生き生きハンドブック」で得た経験や、団体の協力もあって284の市民活動団体からの情報を集め、印刷原稿とすることができました。印刷業者も「生き生きハンドブック」を制作した会社としました。

今後このハンドブックの活用促進を進めるとともに、アンケートを実施し、2年後に制作するハンドブックの資料とします。

(2) NPO フェスティバル 11 月 21 日 (土)

- ・コロナ禍対策として、11 月 21 日(土)オンライン開催しました。
- ・放映は東京工科大学に、司会は宮城あかしさん、中野智行さんにお願ひし、他分野との協働による新しい形が現出しました。
- ・「どーする？これからの市民活動」をテーマに、3 人のパネルディスカッションを行い、ZOOM の双方向機能を使って参加者と質疑応答しました。
- ・Youtube での視聴は、当日以降増え続け、1700 を超えています。

【課題と評価】

司会者を起用し、動画で団体を紹介するオンラインという新しい形に手ごたえがありましたが、市民団体のお祭りという観点から次年度は物販を伴う会場開催をメインに、オンラインをどう絡めていくか模索することになりそうです。

(3) 交流会

SDGs 的な交流会

- ・令和 3 年 3 月 24 日 18 時から 20 時まで完全オンラインで実施した SDGs 的な交流会を開催しました。企画内容としては、市民および市民活動団体の身近な課題の中から、SDGs17 ゴールに関係のある、コロナ禍で急増したテイクアウトゴミ問題および八王子のプロスポーツによるまちづくり、の 2 つのテーマを各 1 時間で実施し、①小部屋を活用した対話促進を含むオンラインでの交流会を実施、②異なる興味のある市民および市民活動団体の交流の促進、③意見集約および時短の為のグラフィックレコーディングの活用、の 3 本柱でオンラインの交流会を実施しました。
 - ・事前準備として、1 月 27 日にファシリテーター 3 名による打ち合わせ、2 月 2 日グラフィックレコーダー 3 名との打ち合わせ、2 月 3 日に地域連携部メンバーとの打ち合わせ、3 月 9 日にイベント関係者 7 名による模擬演習および打ち合わせを実施し、計 4 回の事前打ち合わせを実施しました。
 - ・当日、事前申込者および直前の参加者として、スタッフを含めて 24 名～27 名を得て約 2 時間のオンラインイベントを実施しました。前半 1 時間のテイクアウトゴミ問題は、まず講師の久保田氏による 15 分程度のミニレクチャーの後、ブレイクアウトルームという小部屋に分かれて意見交換を実施しました。各部屋にはファシリテーターを 1 名ずつ配置し、スムーズな対話を実現しました。身近なテーマであり、環境問題の関係者の参加もあり、有益な対話が実施されました。
 - ・後半 1 時間のプロスポーツによる八王子のまちづくりについて、まず講師の梅澤氏によるミニレクチャーの後、ブレイクアウトルームによる意見交換を実施し、プロスポーツの果たす効果や未来について普段では気づきにくいプロスポーツの可能性について対話を実施できました。
- 最後に、その時点で完成したグラフィックレコーディングを提示しながら、全体の流れを振り返って SDGs 的な交流会を終了しました。